

伝統工芸品等のデザイン・商品化に関する研究

－現代生活空間における漆の配色に関する研究－

(第1報)

Study of the traditional crafts for creating new products which adopted design awareness -Analysis of color scheme suitable for the modern living space- (Part 1)

小野 大輔、小松 勇

本研究は、青森県の伝統工芸である津軽塗の価値向上を目的としている。津軽塗の販売減少の要因のひとつとして、従来これら伝統工芸品が使用されてきた和風の生活空間と、現代の洋風をメインとする生活空間とが大きく異なるため、現代の生活空間にマッチした製品が提案できていないことがあげられる。そこで、現代の生活空間における配色や空間を構成する形状を調査、視覚化した資料にまとめ、これを活用して現代住空間に適した製品を検討することを研究目標とした。

第1報では、県内の住宅のリビングとダイニングに用いられている配色や形状の調査と、日本カラーデザイン研究所編「カラーイメージスケール」を参考に、この調査で把握した現代空間でよく使用されている色彩を視覚資料化した取組みについて報告する。

調査にあたっては、家屋の様式を3種に分類し、これらについてリビングとダイニングにおけるメインカラー、アクセントカラーをそれぞれ2～3色ずつ抽出した。色彩情報についてはD I Cカラーガイドを基に共有することとし、調査票（下図左）のように、建物の外観、調査対象の室内の写真を添え、現地で抽出した色彩に近似したD I Cカラーチップを貼付するものとした。調査の実施はあおもりインテリアコーディネーター倶楽部に委託し、対象家屋を実際に訪問取材する方法で行い、収集できた調査結果は32件であった。

調査で抽出されたメインカラー、アクセントカラーの配色を、上記のカラーイメージスケールを参考に視覚的に見ることが出来る資料としてまとめた（下図右）。その上でこれら作成した資料を比較検討した結果、メインカラー、アクセントカラーについて家屋様式ごとにそれぞれの特徴を見出すことが出来た。今後は形状の分析も行い、これらの結果を基にした、現代空間に合致する色彩と形状を持つ製品を構想、提案する予定である。

